

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	2 学年
		コース	研志 コース 大進	
目標	実社会に必要な国語の知識を身に付け、論理的・創造的に思考する力を養い、適切かつ効果的に表現し伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨き、進んで表現する姿勢や、読書に親しみ自己の向上、社会生活の充実を図る態度を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
	A わかる	実社会に必要な国語の知識や技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養い、伝え合う力を高めて、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力する。
	B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことが出来ている。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げようと努力している。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
	C する	実社会に必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法		定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 論理と出会う 2 具体と抽象 3 対比をとらえる
2 学期	4 主張をつかむ 5 論理的に書く―小論文① 6 統計資料を活用する
3 学期	7 比べて読む 8 レポートを書く

何で学ぶか(教材)

大修館書店『新編 論理国語』 副教材（教科書準拠ノート等） 教科担任作成資料 桐原書店『常用漢字ワイドアルファ』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 個別の調べ学習

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで本文と付属資料を関連付けて捉え、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。
	A わかる	・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。
	B できる	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
	C する	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	進んで古典特有の読み方を確認し、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。
評価方法		授業、ワークシート、小テスト、定期考査	授業、ワークシート、小テスト、定期考査	授業、ワークシート、小テスト、提出物、定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(古文) 説話，随筆 『宇治拾遺物語』『十訓抄』『徒然草』 (漢文) 故事と小話 『戦国策』『世説新語』『呂氏春秋』『五雜俎』
2 学期	(古文) 作り物語，和歌 『竹取物語』『小倉百人一首』 (漢文) 史記，十八史略
3 学期	(古文) 日記 『土佐日記』『更級日記』 (漢文) 唐詩，寓話

何で学ぶか(教材)

「新編 古典探究」(東京書籍)
「新編 古典探究(準拠ワーク)」(東京書籍)
「体系古典文法」(数研出版)
「古文単語315」(桐原書店)
各種ワークシート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	数学B	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法
2 学期	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測
3 学期	第3章 数学と社会生活

何で学ぶか(教材)

数研出版	『改訂版新編数学B』
数研出版	『3TRIAL 数学Ⅱ+B』
プリント	

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	数学Ⅱ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える 評価 A わかる 基準 B できる 基準 C する	生活から課題を発見し，事象を数学化することができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，自ら評価・改善しようとすることができる。
	複合問題の構成を的確に捉え，適切な公式を用いて解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	課題に対して適切な公式を選択し，解くことができる。	適切な用語・記号を使い，人が読んで分かる解説を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	基本的な式を計算したり，公式に代入して計算したりすることができる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式
2 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数
3 学期	第6章 微分法と積分法

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ』 または『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	公共	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会とのかかわりをふまえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成することなどについて考察することができる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S 使える A わかる B できる C する	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現実社会の諸課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとする事ができる
	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現実社会の諸課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現実社会の諸課題について、考察し、主体的に解決しようとする事ができる
	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現実社会の諸課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとする事ができる。
	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	現実社会の諸課題に対して、主体的に理解しようとする事ができる。
評価方法	・授業 ・定期テスト	・授業 ・定期テスト ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 部 公共の扉 第 2 部 第1章 民主政治と私たち 第 2 部 第2章 法の働きと私たち
2 学期	第 2 部 第3章 経済社会で生きる私たち 第 2 部 第4章 私たちの職業生活
3 学期	第 2 部 第5章 国際社会の中で生きる私たち 第 3 部 持続可能な社会づくりに参画するために

何で学ぶか(教材)

公共（東京書籍） 公共準拠ワーク（東京書籍）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペアワーク グループワーク ディスカッション

科目名	日本史探究	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース 大学進学	
目標	歴史的思考力を培うなかで、基礎的な知識を身に付け、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	日本史と地理的条件や世界史との関連性を理解でき、諸資料から情報を適切に調べまとめることができる	歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論することができる。	日本史の展開に関わる諸事象を主体的に探究し、多面的・多角的な考察や理解をすることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	日本史の展開に関わる事象の意義や文化などを、比較、相互の関連性や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集することができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成するうえで必要な自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成 貴族政治と国風文化
2 学期	院政と武士の躍進 武家政権の成立 武家社会の成長
3 学期	近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺

何で学ぶか(教材)

『詳説日本史』（山川出版） 日本史のライブラリー（とうほう）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	英語コミュニケーションⅡ	授業時数	週 4 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し，相手に理解してもらうことができる。
	A わかる	多様な場面における言語活動に積極的に取り組むことができる。	相手が表現する内容を整理しながら正しく捉えることができ，内容を的確に理解することができる。
	B できる	事物に関する紹介や対話などを見聞きし，情報や考えなどを理解したり，概要や要点を捉えたりする。	できないことを人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
	C する	基本的な英文を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを理解できる。	できないところを人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察したりすることができる。
評価方法	授業・定期考査・音読テスト	事実と意見などを区別して，理解したり伝えたりすることができる。	授業・提出物・プレゼンテーション

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	Lesson1 Place Worth Visiting Lesson2 Iwago Mitsuaki:Animal Photographer Lesson3 The Haka Lesson4 Digital Detox
2 学期	Lesson5 Goal Setting Lesson6 The High School Hair Salon Lesson7 You Can Make a Difference Lesson8 Nudge
3 学期	Lesson9 The Father of Braille Blocks Lesson10 Do We Need That ? Lesson11 The Vancouver Asahi Lesson12 From Small Companies to the World

何で学ぶか(教材)

COMET English Communication Ⅱ
COMET ベーシックノート
COMET 基本文法定着ドリル
LEAP
LEAP 活用ノート①，②

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	論理・表現Ⅱ	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目 標	3つの領域別の言語活動や複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、発信能力の育成をするとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、伝える能力を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価	<i>S</i> 使える 文法内容を正しく理解しており、その情報量も多い。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して、場面・目的・状況に応じた話題について、的確で適切な表現をすることができる。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用し、情報や考えを話したり、書いたりして表現することができる。
基 礎	<i>A</i> わかる 言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており、聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり、読んだりしたことを活用して、自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して、言語の持つ役割や文化的背景を理解し、相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
基 礎	<i>B</i> できる 英語の文化的背景を理解し、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて、その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり、またコミュニケーションを持つことができる。
準 備	<i>C</i> する 英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり、聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが、自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや、文化的背景に気づき、コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法	授業・学期間考査・クリアテスト	授業・学期間考査・提出物・インタビューテスト	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現在完了形・過去完了形・未来を表す表現 助動詞表現(used to, shouldなど) 助動詞+have+過去分詞・be動詞+to不定詞 受動態・不定詞
2 学期	不定詞 知覚動詞・使役動詞 動名詞・分詞構文・with+0+分詞 比較
3 学期	関係代名詞、関係詞副詞 仮定法 否定の表現・代名詞を使った表現 無生物主語構文・thatを使った表現

何で学ぶか(教材)

三省堂「MY WAY Logic and Expression Ⅱ」

どのように学ぶか(授業方法など)

タブレット教材 グループ学習， ペア学習 個別学習
--

科目名	地学基礎	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース	研志	コース 大学進学クラス
目標	地球や地球を取り巻く環境に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることとともに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 地球のすがた 第 2 章 地球の活動
2 学期	第 3 章 大気と海洋 第 4 章 宇宙と地球
3 学期	第 5 章 生物の変遷と地球環境 第 6 章 地球の環境

何で学ぶか(教材)

教科書（第一 地学基礎(705)） ワーク（第一 ネオパルノート） 資料集（第一 スクエア最新図説地学）
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習 実験，実習 グループ活動 （ポスターセッション等）
--

科目名	地域探求	授業時数	週 2 単位		2 学年
		コース・学年	研志	コース	大学進学
目標	起業家教育を通して、地域の課題にどのようにアプローチしていくかを学ぶ。具体的には、課題の見つけ方、解決方法、周りの協力をどのように得るか、お金の流れなどを学ぶことで、よりよい人生を切り拓いていくための態度を培っていく。				

どのような力を、 どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	外部講師やインターネットを通じて学んだ知識をもとに、求められた以上の工夫を加えて課題を解決できる。	プロジェクトを解決するにあたり、自分たちの意見を客観視しながら、修正を重ねて仕上げることができる。	学習内容をもとに主体的に次の課題を設定し、他者の意見を取り入れつつ、次の行動を起こすことができる。
	A わかる	外部講師やインターネットを通じて学んだ知識をもとに、求められる水準で課題の解決をすることができる。	プロジェクト解決にあたり、他者の意見を取り入れつつも自分の意見を主張でき、まとめ上げることができる。	学習内容に対して主体的に取り組み、与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	外部講師やインターネットから学んだ知識をもとに、他者と協力しながら課題をやり遂げることができる。	プロジェクトを解決するにあたり、他者の意見を適切に聞き、まとめながら進めることができる。	学習内容に対して熱心に取り組み、与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	外部講師やインターネットを通じて学んだ知識をもとに、難しい課題へも取り組みようとする。	プロジェクトを解決するにあたり、他者と協働しながら取り組みを進めることができる。	学習内容に取り組み、与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法	レポート，話し合い資料，プレゼン内容などの成果物	レポート，話し合い資料，プレゼン内容などの成果物，グループ活動	レポート，話し合い資料，プレゼン内容などの成果物，グループ活動	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(4月5月) ビジネスの基礎（インプット） (6月7月) ヒヤリング，大卒の決定
2 学期	(8月9月10月) ビジネスモデル (11月12月) 中間発表へ向けて
3 学期	(1月) 中間発表を受けて (2月3月) 最終プレゼン

何で学ぶか(教材)

・ 中小企業庁資料 ・ オリジナル教材
--

どのように学ぶか(授業方法など)

・ チームごとでの活動 ・ 市場調査，インターネット 電話，コーチング など

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	2 学年
		コース・学年	研志 コース	文系・芸術系大学進学
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース 文系・芸術系大学進学
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	<i>A</i> わかる 各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	自身の現状を適切に把握し、用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	<i>B</i> できる 健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康，性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康，避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康，医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康，水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備，食品の安全を守る活動 働くことと健康，働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント クロムブック

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習

科目名	書道 I	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけ表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法	提出作品 学習シート 考査	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	・漢字仮名交じりの書の学習 I ・漢字の書の学習(行書)「集王聖教序」 ・漢字の書の学習(行書)「蘭亭序」 ・漢字の書の学習(楷書)「風信帖」
2 学期	・漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 ・漢字仮名交じりの書の学習 II ・期末考査
3 学期	・仮名の書の学習 ・漢字仮名交じりの書の学習 III

何で学ぶか(教材)

教育図書『書 I』 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	美術 1	授業時数	週 1 単位
コース・学年	研志 コース	2 学年	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。		

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけて表している。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション 造形表現その一（彫刻） 造形表現その二（版画）共同作品 美術作品鑑賞その一
2 学期	絵具の制作と表現（絵画） 造形表現その三（デザイン/彫刻） 期末考査 美術作品鑑賞その二
3 学期	自己と表現の考察 造形表現その四（絵画/彫刻/etc.） 美術作品鑑賞その三

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、鉛筆、絵具（中学、高校 1 年次から使用しているものでも可）／各の題材に必要な材料は学期ごとに購入します。

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いた ICT 授業も行いますので必要に応じて持参してください。
--

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 1 単位	2 学年
			コース	研志 コース	
目標	幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	・読譜能力を身につけ歌唱・リコーダーの演奏ができる。 ・音楽の歴史的背景を理解し鑑賞することができる。	楽曲のイメージと自己のイメージを結び付け、表現するための技能を身につけることができる。	・グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。 ・積極的にいろいろな音楽を鑑賞することができる。
	・音楽の様々な表現方法を知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心を持ち鑑賞することができる。	・アーティケレーションを意識した表現ができる。 ・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。 ・積極的に音楽を鑑賞することができる。
	・腹式呼吸や正確なリコーダーの運指で、合唱・リコーダーアンサンブルができる。 ・音楽の歴史に関心を持つことができる。	・井やトのあるメロディを流れるようにスムーズに演奏することができる。 ・時代による音楽の変化を感じ取りながら鑑賞することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち、合唱やリコーダーアンサンブルに喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	ルネサンス・バロック時代の音楽 アルトリコーダー「グリーンズリーブス」 歌唱「見上げてごらん夜の星を」 実技テスト
2 学期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」 実技テスト 期末テスト
3 学期	近代の音楽 歌唱「Memory」 アルトリコーダー「モルダウ」 実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名	体育	授業時数	週	2	単位	2	学年
		コース・学年	研志	コース	文系・芸術系大学進学		
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習（ゲーム） チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
--

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	2 学年
		コース	研志	コース 文系・芸術系大学進学
目標	生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	<i>S</i> 使える 社会生活における健康の保持増進に関わる事情から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	<i>S</i> 日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	<i>S</i> 健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	<i>A</i> わかる 各段階における健康の課題や我が国の健康・医療制度や機関の適切な活用の仕方がわかる。	<i>A</i> 自身の現状を適切に把握し、用途に応じて、適切な施設や制度の選択ができる。	<i>A</i> 様々な健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	<i>B</i> できる 健康の保持増進には、個人的要素だけでなく、社会的要素が深くかかわっていることを理解できる。	<i>B</i> 適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	<i>B</i> わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	<i>C</i> する 保健に関する重要語句が理解できる。	<i>C</i> 語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	<i>C</i> 授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	思春期と健康，性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康，避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学期	中高年期と健康，医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学期	大気汚染と健康，水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備，食品の安全を守る活動 働くことと健康，働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント クロムブック
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 調べ学習
